

今森光彦展 いのちめぐる水のふるさと ―写真と切り絵の里山物語―

【報道関係各位】



今森光彦展

いのちめぐる水のふるさと

―写真と切り絵の里山物語―

2021 6.24(木) - 9.5(日)

MITSUHIKO
IMAMORI

1. 《大津市仰木地区に広がる棚田》 ©Mitsuhiko Imamori

佐川美術館（所在地：滋賀県守山市）では、夏季展覧会として「今森光彦展 いのちめぐる水のふるさと ―写真と切り絵の里山物語―」を開催いたします。

人と自然が共生する「里山」。その中で生み出される豊かな営みを見つめ続けてきた写真家・今森光彦さん。滋賀・湖西地域の仰木地区の一画、琵琶湖を望む田園風景の中にアトリエを構え、四季折々に移り変わる田んぼや里山に集まる生き物を撮り続けてきました。また、蝶や鳥、植物をモチーフに、精緻で生き生きとした作品をつくる切り絵作家としても知られており、深い洞察力により、たった一本のはさみから生み出される作品は、生き物の力強さや植物の鮮やかさが表現されています。

本展では、里山に暮らす今森さんのライフスタイルの紹介をおりまぜながら、写真と切り絵で里山の魅力に迫ります。さらに、「水」をテーマに、琵琶湖を中心に滋賀を取り巻く琵琶湖水系に着目し、そこにまつわる生き物や暮らしを合わせて紹介します。自然とそこに暮らす人々がつながる美しい里山の景色と、身近な自然と関わりながら暮らす喜びや魅力をお楽しみください。

展覧会実施概要

◆名称：「今森光彦展 いのちめぐる水のふるさと ―写真と切り絵の里山物語―」

◆会期：2021年6月24日[木]～9月5日[日]

◆開館時間：午前9時30分～午後5時
(入館は午後4時30分まで)

◆休館日：月曜日(8/9は開館)、8/10

◆入館料：一般¥1,000/高大生¥600/

中学生以下無料 ※ただし保護者の同伴が必要

※ 専門学校・専修学校は大学に準じる

※ 障害者手帳をお持ちの方(手帳をご提示ください)、
付添者(1名のみ)無料

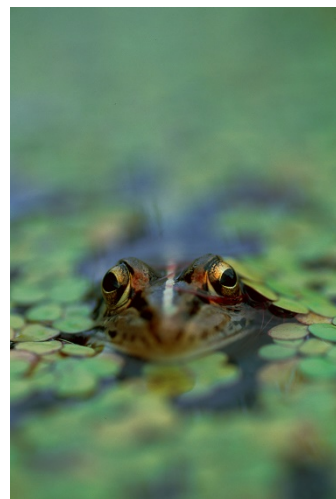
[主催]佐川美術館 (公益財団法人 SGH 文化スポーツ振興財団)

[後援]滋賀県、滋賀県教育委員会、守山市、守山市教育委員会、BBC びわ湖放送

[企画協力]有限会社オーレリアンガーデン、クレヴィス

[協力]SGホールディングス株式会社、佐川急便株式会社、佐川印刷株式会社

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、内容を変更する場合がございます。当館ホームページやツイッターをご覧ください。 ©Mitsuhiko Imamori



2. 《田んぼから顔を出したトノサマガエル》

今森光彦展 いのちめぐる水のふるさと ―写真と切り絵の里山物語―

■ 作家紹介

今森光彦（いまもり みつひこ 1954- ）

滋賀県生まれ。写真家・切り絵作家。大学卒業後独学で写真技術を学び1980年よりフリーランスとなる。琵琶湖をのぞむ田園風景の中にアトリエを構え活動する。自然と人との共存を里山というキーワードで表現し続けている。写真集や写真絵本など、数多くの著書がある。第20回木村伊兵衛写真賞、第28回土門拳賞をはじめ、第48回毎日出版文化賞、第42回産経児童出版文化賞大賞、第56回小学館児童出版文化賞など数多くの賞を受賞。NHK テレビ番組でも、その活動や里山での暮らしぶりが多数紹介されている。



今森光彦さん ©オーレリアンガーデン

TOPICS

木村伊兵衛写真賞と土門拳賞

日本の近代リアリズム写真を代表する写真家・木村伊兵衛^{きむらいへい}と土門拳^{どもんけん}にちなんで設立された賞。木村伊兵衛写真賞が「写真界の芥川賞」、土門拳賞は「写真界の直木賞」と呼ばれることがある。両賞とも受賞する写真家は、現在までに今森光彦さん含む3人のみである。

みどころ

■ 失われつつある日本の原風景・里山



日本の原風景の一つといわれる里山。

里山とは、原始的な自然と都市との中間に位置し、集落や二次林、農地、ため池などで構成される場所のことで、国土の約4割を占めていると言われています。里山は、長い時間をかけて人々が自然と寄り添いながら作りあげてきた場所です。もともとある自然に人工的に手を加えながら、人々とその土地の生態系とが共存してきた里山には、様々な生き物が生息し、あらゆる文化が根付いています。

今森さんは、里山を長年自身の目で見つめ、そこから見える真実を写真に残してきました。今森さんの目で捉えた里山が見せる四季折々の表情を、作品を通してご覧ください。



《田植えの頃の里山》 ©Mitsuhiko Imamori

また、今森さんは自身で荒れ地を開墾し、農地を“人と生き物が触れ合える場所”として蘇らせようと里山再生の活動にも取り組んでいます。自身で環境農家と名乗る今森さん。自身のアトリエの場所や、開墾した農地一帯は「光の田園」と名付けられています。本展では、光の田園における今森さんの挑戦の軌跡をあわせてご紹介します。

今森光彦展 いのちめぐる水のふるさと ―写真と切り絵の里山物語―

■ “オーレリアン” 今森さんのライフスタイルとは？ 色鮮やかな切り絵作品も多数出展



上：3. 《キアゲハ》 下：4. 《カリン茶》

©Mitsuhiko Imamori



光の田園の中にある今森さんのアトリエの庭には、現在 70 種類の蝶が生息しています。“オーレリアンの庭”と名付けられた庭は、今森さん流の里山への愛情が詰まった場所です。オーレリアンとは、ラテン語で「蝶を愛する人」のこと。ロケーションの生態系を最優先に守りながら、蝶をはじめとする昆虫たちの食草を考えて庭を植栽したそうです。

また、オーレリアンの庭では、四季のごちそうとして様々な食物が収穫されます。今森さん流の旬の味覚の楽しみ方は、見ているこちら側も思わず日常に取り入れてみたくなるものばかりです。この章では、昆虫や植物といった四季折々のオーレリアンの庭の住人と、今森さん流里山ライフスタイルをご紹介します。



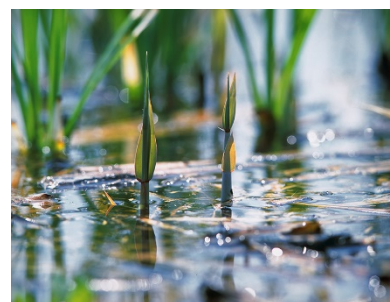
5. 《ヤツガシラとジギタリス》

©Mitsuhiko Imamori

切り絵作家としても知られている今森さんは、蝶や鳥、植物をモチーフに 1 本のはさみで作品を制作します。作品に表現されるモチーフはどれも細やかに表現されており、今にも動き出しそうです。今森さんが常日頃よりいかに対象を観察し、真実を見つめ続けているのか、作品から伝わってきます。

■ 地元・滋賀だからこそ注目したい！ いのちがめぐる場所、琵琶湖水系で繰り出されるドラマ

母なる湖・琵琶湖。滋賀県は、琵琶湖を中心に四方が山に囲まれた盆地を有しています。山に降り注いだ水は、川となり琵琶湖に注がれます。そして瀬田川から淀川を経て大阪湾へと流れます。近畿の水がめとしての役割を担う琵琶湖ですが、その水の流れの中であらゆる生命が生まれ、生き抜き、一生を終え、また新たな生命へとサイクルを繰り返していきます。人間もその一つであり、はるか昔より水とともに日々の生活を営んできました。その歴史の中でありとあらゆる文化が水とともに根付き、様々な生き物と共生し続けてきたのです。



《ヨシの芽吹き》 ©Mitsuhiko Imamori



漁師の姿、琵琶湖のランドマークともいえるヨシの群生、琵琶湖固有種の生き物たち…琵琶湖を中心とした水系は、いろいろなドラマを私たちに見せてくれます。今森さんがファインダー越しに捉えた自然の姿からは、きっと何かの気付きを得るはずです。

普段気が付かないこと、改めてその大切さを知ること。いのちめぐる水のふるさと、琵琶湖水系で繰り広げられるドラマについて、作品全体を通して感じとっていただければ幸いです。

6. 《朝焼けの船着き場》 ©Mitsuhiko Imamori

今森光彦展 いのちめぐる水のふるさと ―写真と切り絵の里山物語―

イベント情報

■今森光彦さんアーティストトーク

【開催日】 7/17(土)

「小さな里山をつくるーオーレリアンの庭の蝶ー」

【開催日】 8/7(土)

「琵琶湖水系の自然」

両日ともに

【時間】 14:00～ (60～90 分)

【会場】 佐川美術館 楽吉左衛門館ロビー

【定員】 50 名

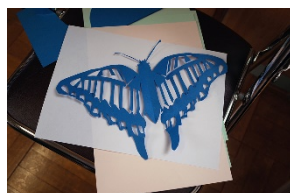
【対象】 全年齢(小学校高学年以上推奨)

【料金】 無料 ※ただし、入館料は必要

■ワークショップ

【開催日】 6/27(日)、8/17(火)

「今森光彦さんと切り紙にチャレンジ！」



切り紙ワークショップ(要予約)

両日ともに

【講師】 今森光彦さん

【時間】 10:30～、14:00～ (60～90 分)

【会場】 佐川美術館

【定員】 各 15 名

【対象】 小学生～中学生(要保護者同伴)

【料金】 300 円

【開催日】 8/5(木)

「オリジナルのバードコールをつくろう！」

バードコールワークショップ(要予約)

【講師】 佐川美術館スタッフ

【時間】 10:30～、14:00～ (60 分)

【会場】 佐川美術館

【定員】 各 15 名

【対象】 5 歳～中学生(要保護者同伴)

【料金】 300 円

■野外イベント

【開催日】 8/10(火) 当初 8/6(金)を予定しておりましたが、変更になりました

「今森光彦さんと野外でいきもの観察会」

※こちらのイベントについては、詳細が決まり次第、佐川美術館ホームページにてお知らせいたします。



新型コロナウイルス感染症の拡大状況に応じて、実施内容が変更になる場合がございます。

詳しい参加・予約方法、最新の情報については、必ず佐川美術館ホームページをご確認ください。

●広報用写真について

本プレスリリース中に掲載している画像データ(番号が記載されているもの)をご用意しております。

画像データをご希望の方は、同封の作品画像使用申込書(プレゼント用招待券申込付)に必要事項をご記入の上、当館までファックスまたは下記担当者宛にメールでお申込ください。

当館ホームページ(<http://www.sagawa-artmuseum.or.jp/press/>)から画像申請も受け付けております。

その他の画像が必要な場合は、企画担当者までご連絡ください。

なお、作品画像につきましては、当該展覧会の広報以外でのご使用はお断りしております。トリミングなどの画像の加工はご遠慮ください。また、申込書に記載しておりますキャプションの表記もお願い致します。

●プレゼント用招待券について

読者・視聴者・リスナーへのプレゼント目的にかぎり、本展覧会会期中有効のご招待券を10枚までご提供させていただきます。

ご希望の方は同封の作品画像使用申込書(プレゼント用招待券申込付)に必要事項をご記入の上、当館までファックスまたは下記担当者宛にメールでお申込ください。

◆交通のご案内:

お車ご利用の場合

駐車場有 70 台、美術館入館者は無料

- 名神高速瀬田西 IC から湖周道路経由 (約 30 分)
- 名神高速栗東 IC から守山栗東線経由 (約 30 分)
- 名神京都東 IC から湖西道路 (真野 IC)・琵琶湖大橋経由 (約 30 分)

鉄道ご利用の場合

- JR 琵琶湖線守山駅から路線バス「佐川美術館」下車 (約 35 分)
- JR 湖西線堅田駅から路線バス「佐川美術館」下車 (約 15 分)

◆連絡先◆

公益財団法人 SGH 文化スポーツ振興財団
佐川美術館

〒524-0102 滋賀県守山市水保町北川 2891

TEL:077-585-7800/FAX:077-585-7810

企画担当学芸員 : 馬場 まどか (ばば まどか)

m_baba004@sagawa-artmuseum.or.jp



MITSUHIKO
IMAMORI

作品画像使用申込書（プレゼント用招待券申込付）

佐川美術館 宛 FAX / 077-585-7810

今森光彦展

いのちめぐる水のふるさと

— 写真と切り絵の里山物語 —

申込日 2021 年 月 日

作品画像の露出・掲載等 ご使用にあたっての注意	● 申請された方法、目的以外には使用しないでください。 ● 掲載誌・紙は資料として 1 部以上お送りくださいますよう、お願い致します。 ● その他の画像が必要な場合は、企画担当者までご連絡ください。
使用作品 ※ご希望の作品にチェックを 入れてください。	☐ 1. 《大津市仰木地区に広がる棚田》 ©Mitsuhiko Imamori ☐ 2. 《田んぼから顔を出したトノサマガエル》 ©Mitsuhiko Imamori ☐ 3. 《キアゲハ》 ©Mitsuhiko Imamori ☐ 4. 《カリン茶》 ©Mitsuhiko Imamori ☐ 5. 《ヤツガシラとジギタリス》 ©Mitsuhiko Imamori ☐ 6. 《朝焼けの船着き場》 ©Mitsuhiko Imamori ※作品画像使用の際は、上記キャプションの表記をお願いします。 校正原稿を企画担当者まで必ずお送りください。確認に期日を要するため、お早めにお問い合わせください。 計 点
媒体名	
貴社名	
ご芳名(ご所属)	()
ご連絡先	ご住所:(〒 -) メールアドレス TEL: FAX:
発行(掲出)予定日	年 月 日 号
使用形態(○印)	Web サイト / 印刷物(カラー / モノクロ)
招待券希望枚数	読者プレゼント用として、招待券 枚 ※ 枚数は 10 枚以内でお願いいたします。ご了承ください。